郷土資料館のお宝探訪 Treasure

郷土資料館の大事な仕事のひとつに、播磨町の歴史を彩る様々な資料の収集や保管があります。本年度は、数ある資料館の収蔵品のうち、代表的なものを紹介していきます。広報はりまの掲載月にあわせ、関係資料を展示します。ぜひ本物を見に来てください。

播磨町郷土資料館 ☎079（435）5000

Treasure 10 清太郎愛用の『船箪笥』

▲清太郎愛用の船箪笥

◀速鳥丸・神護丸（個人蔵）

船箪笥は、江戸時代の終わりごろから明治時代にかけて、船乗りが船室で用いた小型の収納具のことで、紹介する船箪笥は、彦太郎（ジョセフ・ヒコ）などとともに漂流し、アメリカに渡った西本荘村出身の清太郎（本庄善次郎）が使用していたとされるものです。

嘉永3（1850）年に漂流した栄力丸に乗り組んでいた17人の中に8人の播磨町出身者がいます。その一人が清太郎で、ヒコより一足早く、喜代蔵、甚八、源次郎（浅右衛門）らとともに帰国し、安政2（1855）年に郷里に戻ります。その後、姫路藩主酒井忠顕の命によって、アメリカで会得した新しい知識を生かしてスクーナー型の洋式帆船、速鳥丸と神護丸を建造し、船頭（船長）として江戸との間を往復するなどの活躍をしますが、この船箪笥はそこで使用されていたようです。

この船箪笥は堅く丈夫なケヤキ製で、隅角や縁には頑丈な鉄の金具のほか、飾り文様の付いた金具も取り付けられています。横幅52・7センチ、奥行43・0センチ、高さ46・8センチで、3段にそれぞれの大きさが異なっている6つの引き出しが付いています。上段と最下段左側の引き出しは鍵がかかるようになっているので、最も重要なものを保管したのでしょう。

船箪笥は、用途によって色々な名で呼ばれていたようですが、無名の職人たちが作ったものを「民藝」と名づけ、日常道具の中に美を見出した柳宗悦によって名付けられた名称です。北前船（大坂と蝦夷地を結ぶ日本海航路に就航した廻船や千石船の船頭が金銭、往来手形、証文、帳簿類、印鑑などの貴重品を入れるために使った小型の箪笥をさし、衣類などを収納・保管する箪笥とは機能が異なっています。なかには大切なものを容易に取り出せない数々のからくりを持っているものもあります。また、シケでも移動や転倒しないように背は低く小型に作られ、容易には壊れないよう頑丈に作られていることから、防犯性能にも優れています。難破しても船箪笥は沈まず、持ち主の元へ戻って来ることや、浮きの代わりとしたこともあったようです。船が港に着き船問屋との商談の際、船箪笥は船頭とともに座敷の床の間に置かれ、取引相手の信用を勝ちとる役割も果たしました。

しかし、洋式の大型船や鉄道の発達によって北前船などが衰退する明治後期には姿を消してしまいました。

播磨町郷土資料館　館長　井守徳男

町の人口 12月1日現在（住民基本台帳人口＋外国籍人口）
34,836人（＋31人）男…17,086人（＋15人）女…17,750人（＋16人）世帯数…14,181世帯（＋34世帯）

広報はりま　発行／播磨町役場　〒675－0182（個別番号）　兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号　TEL 079（435）0355　FAX 079（435）0609　編集／企画グループ　印刷／㈱岸本印刷所
播磨町のホームページアドレス http://www.town.harima.lg.jp
〃 Eメールアドレス kikaku@town.harima.lg.jp

PRINTED WITH SOY INK